

冬

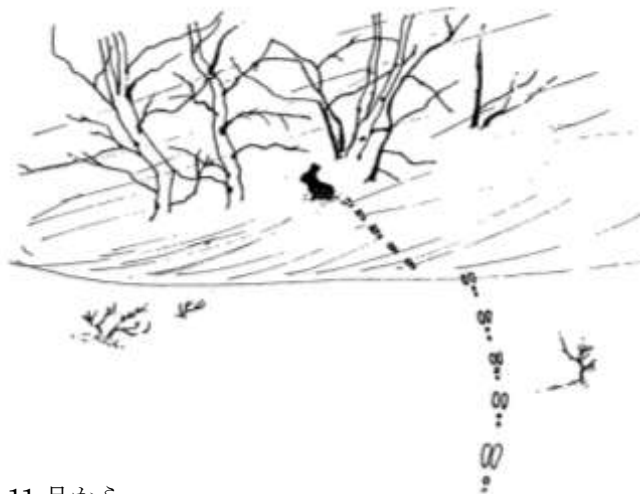
水源の森

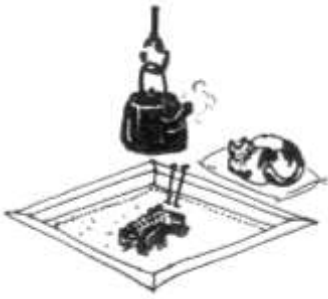
奥利根は関東地方の北端の雪国です。日本海側の冬は、みんな同じような風景と思いがちだけれど、まち中と山ふところでは、雪の量はまるで違う。

ここ水源の森は、11月から4月まで、半年も雪にとざされます。

畑も笹やぶも、みんな雪の下に。動物たちはどこで身をひそめ、何をたべているのだろう。

動物たちの姿は見えなくても、雪の上の足跡、木の皮をたべたあと、糞などで生きものたちの冬の暮らしをかいま見ることができます。降りしきる雪の夜、あるいはキラキラと輝いている星の下で、昔むかしからくりかえされているヒトの暮らし、生きものたちのこと、そんなさまざまな歴史に思いをめぐらしましょう。





雪の夜に……

耳を傾けましょう……。

雪の降る音、聞こえますか？ コンコンか、フワフワか？ “しんしん” などというのは、たぶん心にしみいる冷たさの表現でしょう。

何度となく降って、積もって固まった雪でも、ブスツともぐったりします。

夏の頃は茶色だった高山帯のライチョウも、冬はまっ白に変身し、カンジキをはいたようなあしになっています。

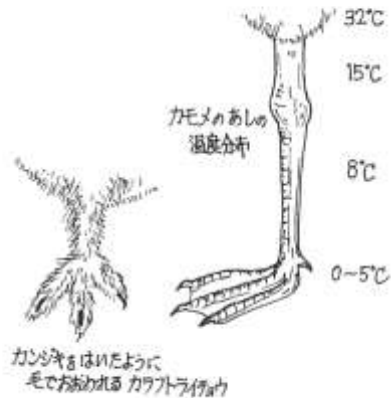
イノシシは、雪の深い所では暮せません。体重のわりに足が細くて、短いから——。30cmの積雪が70日を越す地域には分布しない、といわれていますから、藤原地区ではとても無理です。

ここで暮らせるのはクマとかカモシカと……それから？

白いろ一色の世界。でもイヌイットの人たちには、白い雪や氷を表現する言葉が何十もあるといえます。

雪の中のキャンプで、今まで見失っていたものを、たくさんたくさん感じ取りましょう。

動物の姿を見かけましたか？



どこで見つける？ 七草なずな

1月7日が七草がゆって、知ってました？ 1月といっても旧暦のお話です。

まだ、どこにも、柔らかくておいしそうな新芽などでていない。だからこそ、若々しいみどりが貴重な食卓の賑わいだったのでしょ。

秋野菜はとっくに終って、畑に残っているものも凍ったまま枯れかかっている。昔から2月と8月は野菜づくりの切れめ、端境期でした。

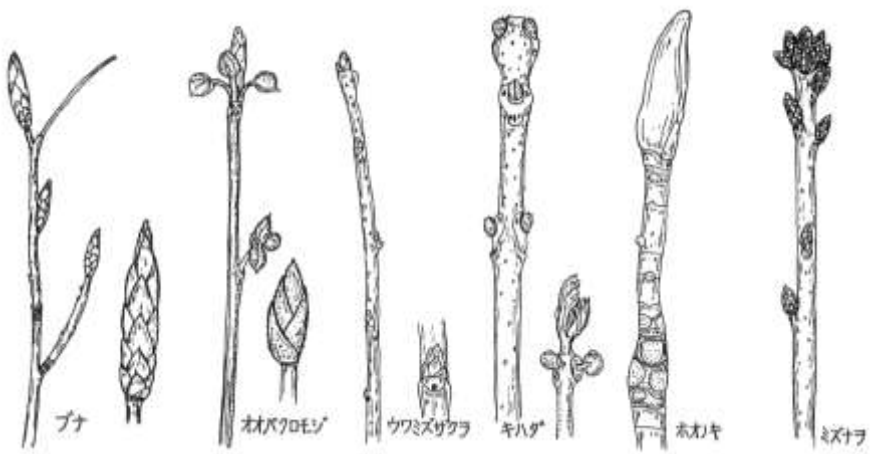
でも、大地の奥深くから湧き出してくる清水は、意外に暖かい！ そんな小川の日だまりは、そこだけ雪がとけて、かすかなかげろう、土の匂い。そして、そこだけ、ほんの少しの緑がのぞく！

“みどりご”とか“みどりの黒髪”とか、みどりは色じゃなくて、若々しいのちのたとえだったんですね。

でも、ふしぎ。どうして5種類の野草にまざって、ダイコンとカブが入っているのでしょうか？



★春の野草のくわしい説明は
“野草の本”p16~にあります



冬芽いろいろ

あなたはこだわり派？
大ざっ派？

木枯しとともに落葉した木々は、生産活動にひとくぎりつけ、冬芽の形で雪の季節を耐えます——。

それぞれの木には、先祖伝承のスタイルがあるので、幹の色や模様とあわせて、専門家は何の木か、ピタリとあてます！

でも、ふつうの人には、冬の落葉樹の区別はむずかしすぎる。そんなときには、人の防寒方法とくらべて、冬芽の形から連想してみましよう。

毛皮のコート着ている。皮ジャン。重ね着。カメムシみたいな身を寄せあつて。(ミニスカートに生足も??)

秋のうちに半年先のことを考えている。冬芽は、エネルギーの塊です！

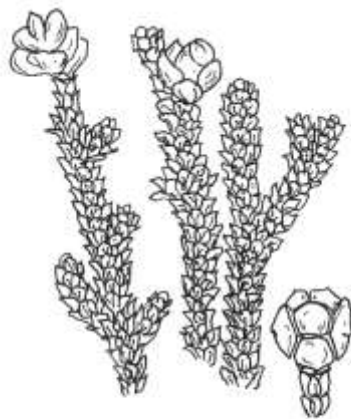


雪国の植物たちは ちょっとちがう！

太平洋側の木々を見てきた人もここで
ちょっと違う、と気づいたのでは？ヤブ
ツバキやシイノキ、タブノキはありました
か？

何となく似ているようで違うのが、チャ
ボガヤとハイヌガヤ。それにオオバクロ
モジ、エゾユズリハなどは、小さな図鑑に
はのっていない北方系の植物たちです。

自然環境と植物のちがい。そんな視点で、この地球の植物を考えるの
も冬の楽しみの一つです。



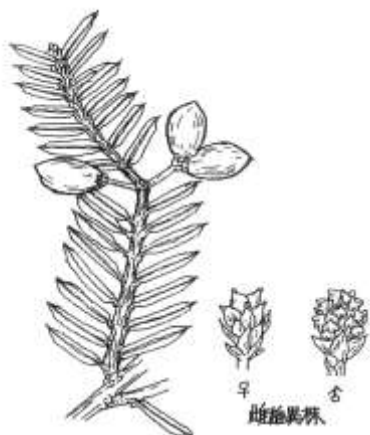
ヒノキアスナロ（ヒギ科アスナロ属）

冬でも濃い緑で、ウロコのような葉が目立つ。
溪流沿いにも、水源の森の頂上にも、
アスナロの変種で、ヒバ、山ヒバなどともい
われる。



チャボガヤ（イチイ科カヤ属）

幹の下部から枝わかれして斜めに
茂る。3m以下。地についた枝から
根をだす。枝は赤味をおびる。
カヤの多雪地帯型の変種。



ハイヌガヤ（イヌガヤ科 イヌガヤ属）

葉はイヌガヤより小さめ。幹はもとから
斜めにでて2mくらい。
北海道西部から日本海側に主に分布
している。

風が冷たいのは 動物たちだって



寒いから厚着する。耳や指先の露出部分が冷たいのは、動物たちだって同んなじです。だから同じグループの動物は、寒いところに分布するものほど、耳が小さい傾向があります。(アレンの法則)。

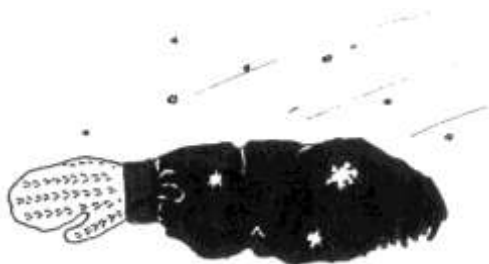
寒いときは、からだを丸くして、表面積を小さくした方がいい。からだが大きいくほど、体重の割に表面積が小さくなるから。(ベルグマンの法則)。

この地球にはいろんな動物がいて、それぞれがすみわけているわけですが、1属1種なのに地球上のどこにでもいる！それが人間です！

動物も植物も、環境が変わると絶滅しちゃうのに、ヒトだけは昔にストックされたエネルギーを使って、どんな所でも快適に暮していける。

北の海のスケソウダラは5℃の冷たい所で生きている。氷のはった沼で眠る水鳥は、動脈と静脈の流れが精巧な熱交換器になっていて、あしの部分は冷たい血が流れるようになっている。エネルギーロスを防いでいます。

ところで——、脂肪をたくさんためた太目の人は、断熱効果がすぐれ、寒さに強いのでしょうか？

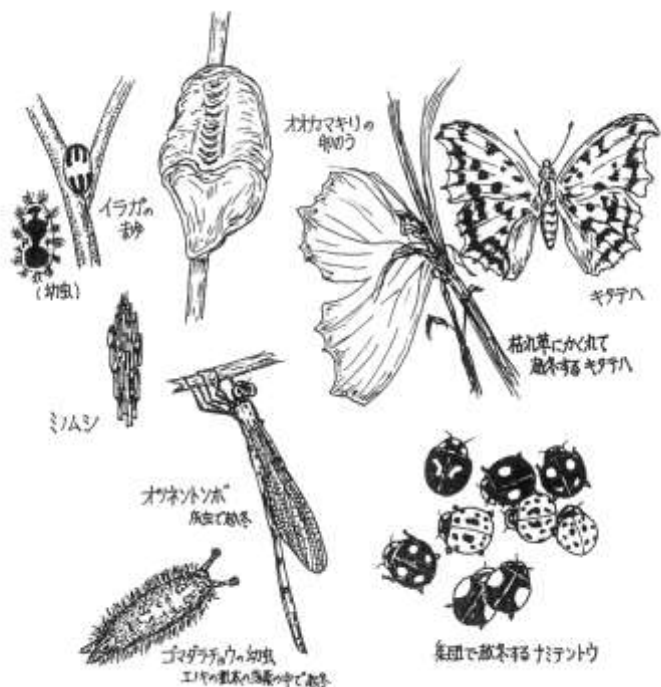


長くきびしい冬・虫たちはどこに？

クマやヘビの冬眠のこと、知ってますよね。体温のロスを極限まで少くして、ヘビの体温は気温と同じです。

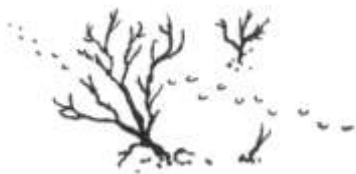
クマの場合は、妊娠中のお母さんのこともあるから、秋は備蓄の季節。食欲がすさまじい。体温は低目に保って冬を眠る。時折のトイレは、寝ぼけまなこで外出し、またもとのほら穴に戻るといわれています。でも、その一部始終を見とどける人はほんの少数派。地元の熊捕り名人にぜひお話を聞きたいですね。

鳥を見かけましたか？ チョウやトンボは？ 南に面した崖とか、枯草・朽木の中で越冬する虫もいます。オツネトンボのからだは、“不凍液”に満たされ、成虫のまま長い冬を越します。



冬の始まりは

いつ？



北半球のまん中ぐらいにある日本列島にとって、冬の太陽は赤道の向こう、一番遠いところにあります。

12月末の冬至の時には南回帰線の上において、見かけの太陽の高さは正午で30度ぐらい。つまり、あなたの影も、木々の影も、2倍に細長くなってしまふ。

山かげに日が沈むと、ゾクゾクするほど急に冷えこんできますね。

クリスマス・ツリーの由来はいろいろですが、北欧の冬至のお祭りと重なったという説もあります。

ほんの少しずつだけれど、明日からは日あしが伸びる。山の神さまが住んでいそうな、山いちばんのカッコいい木を切ってきて、ストーブが赤々と燃える部屋の中央にと。

季節の配分は、3ヶ月ごととは限らないようです。雪国の冬は半年も続くのですね。

あなたの毎日の時間配分 — 働く、くつろぐ・遊ぶ、眠る — はどんな割合？



この次に、あながたここへ来るのは、たぶん新緑の季節ですね！ 村の春祭りには、どんな行事があるのでしょうか？

文とイラスト 高野 史郎
表紙とかわいイラスト 浦田 慈子

〒105-0014 東京都港区芝 2-4-3
三菱東京 UFJ 銀行芝ビル
TEL : 03-5730-0337 FAX : 03-5232-0312

公益財団法人 三菱UFJ環境財団